非常災害対応を通して感じた後方支援の必要性について

２０２４年3月１１日（月）

本店ＢＳ本部 総務部法務室（株式）藤田　幹
本店ＢＳ本部 総務部法務室（法務）伊藤　浩明
新潟支店 地域共創本部（総務広報）山本　優斗

１．後方支援の稼働内容等

■活動内容

- 道路状況等の確認
- 配電復旧班の現地支援本部となる場所の
- 支援拠点へのエアシェルター設営 等

■主な車載品

- エアシェルター，簡易トイレ，折り畳みテーブ
  石油ストーブ，灯油，ランタン，ターブ，ブ

■活動スケジュール

・１月１０日
- 新潟班および本店班は，早朝に各地を出発。
- 夕方，宿舎に集合した後，翌日（11日）の予定を確認。

・１月１１日
- ルート状況を確認しながら作業場所（マツモトキヨシ輪島店付近）へ移動。
- エアシェルター2張を設置。

・１月１２日
- 本店班は，今後の更なる支援や撤収等を見据え，糸魚川電力センターへ車両1台と後方支援物資を引き継ぎ，仙台へ帰所。
- 新潟班は，支店・支社後方支援隊（金沢市）にエアシェルター関連機器を引継ぎ，新潟へ帰所。





１．後方支援の稼働内容等



資機材積み込み



本店出発



1/11出発前ミーティング



エアシェルター設置_シート広げ



エアシェルター設置_骨組み通し



エアシェルター設置_空気入れ

１．後方支援の稼働内容等



エアシェルター設置完了



エアシェルター内装



エアシェルター活用状況（北陸との打合せ）



支店・支社後方支援隊へ器材引継ぎ

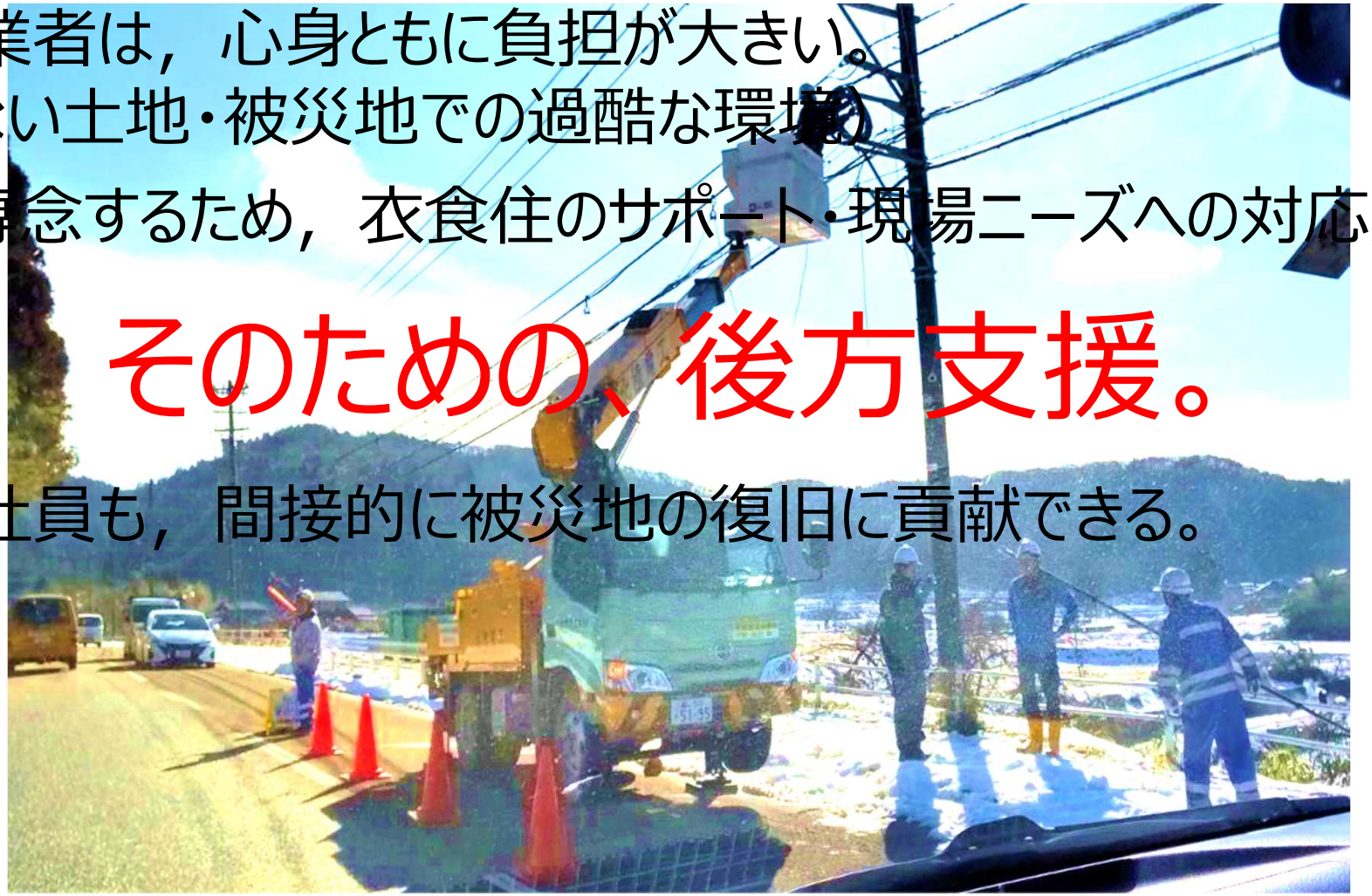


支店・支社後方支援隊へ器材引継ぎ



現地の道路状況

- 復旧作業者は，心身ともに負担が大きい。
  （慣れない土地・被災地での過酷な環境）
- 作業に専念するため，衣食住のサポート・現場ニーズへの対応が必要。



そのための、後方支援。

- 事務系社員も，間接的に被災地の復旧に貢献できる。

３．後方支援派遣の経緯と私たちの心境

■山本

- 元気の良さ・フットワークの軽さを買っていただいたこと・経験値を積ませる意味で指名されたと思料。
- いつかは通る道だと考えていたため，**率直に「待ってました！」と前向きな気持ち**を持った。
- 一方，**社宅に妻と小さい娘（２人）を残して被災地に向かう迷いもあった**が，背中を押してもらい派遣が決定。
- 加えて，先輩からの家族に対する精神的サポートも大きかった。

■藤田

- 今まで**災害現場への応援を経験していなかったため，「遂に来たか。」という心境。**余震も続く現地への移動および稼働に不安を感じながらも，被災地の復旧や現場で活躍する**配電部隊に少しでも貢献できたらという思い**から，その場で快諾する。
- その晩，**家族へ被災地への派遣を報告すると，かなり心配される・・・**

■伊藤

- グループ員の業務都合も踏まえ指名いただいた。**素直に「よし，やるぞ！」という気持ち。**
- 前回，初めて後方支援に派遣されることが決まった際は，自分にできること，役に立てることはあるのか少し不安になったが，実際に後方支援を体験して，自分にも必ず何か役に立てることはあると感じたので，**今回は不安よりも被災地のために少しでも力になりたいという気持ちが勝った。**
- 一方，法務グループは業務が輻輳し始める時期でもあったため，今抱えている業務を誰にお願いすればいいのか，応援から**帰ってきたら業務が溜まってしまっているのではないかという不安も**少しあった。

４．被災地や実際の作業を目にして思うこと

- 失われた当たり前の日常。
- もし東北・新潟で再び大規模災害が発生したら…
- 電力・水道・消防・自衛隊などの全国各地からの応援隊の頼もしい後ろ姿。
- **「何としてもお客さまに電気をお届けする」という脈々と受け継がれてきた使命感。**







４．被災地や実際の作業を目にして思うこと

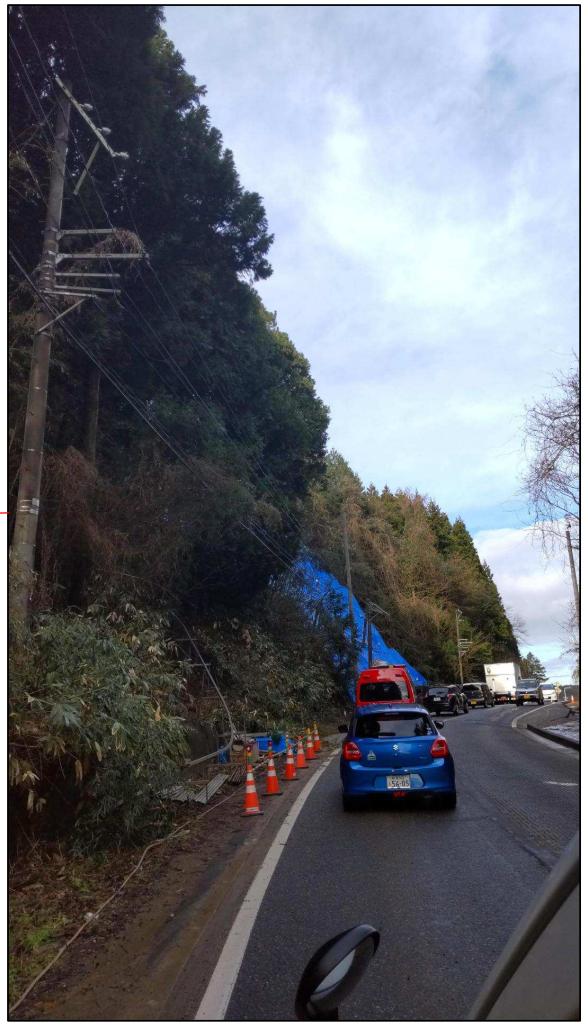


輪島市ショッピングモール群の状況
（マツモトキヨシ輪島店も，この一画）



R249通行止め表示





路面状況_法面崩落

４．被災地や実際の作業を目にして思うこと



道の駅トイレ使用制限（志賀町）



断水に伴う自衛隊による給水（志賀町）



主要道路電柱傾斜（穴水町）



各社応援隊の車両（輪島市）

- **課・グループ全体からのバックアップ**
- 個別業務は，至急引継ぎ
- 家族からのありがたいサポート
- 労いと応援のメッセージ
- WING端末更新の恩恵







■後方支援にあたって必要なマインドを備える

(１)「柔軟な対応」と「とにかく“何でもやる”という気概」

- 現場の状況に応じて，**臨機応変に動けるような心構えと判断力**。
- 被災者や現地作業者の姿を想像し，どんな些細な，地味な，嫌な仕事でも，後方支援として**「できることはなんでもやる」という使命感。**
- 被災地や被災者にしっかりと「寄り添い」，現場のニーズに「より沿う」行動。

(２)日頃からの準備・心がけ

- **災害はいつか必ず起こる。**日頃から「その時」に備える。
- 災害対応関係の情報連絡箋の内容を確認，**自分が応援派遣されることになったら・・・と想像する。**



■被災地支援における使命を自覚する

➢**電力供給のノウハウを持つ当社は，被災者から見て心強い存在。**

➢事務系社員は**復旧対応にあたる技術系社員のサポート**という重要な使命がある。

たとえ，被災地が当社の供給域外だとしても・・・

「東日本大震災の際，私たちは被災者として，
被災地域の電力会社として，多大なる支援を受け。
今度はその恩返しをする番！」



■知見

➢状況は刻一刻と変化

・現地では，途中新たな課題が顕在化するなど常に状況が変化する。
・同乗者は運転補助に加え，その状況を逐一キャッチする必要あり。

➢地震による道路状況の悪化

・震災の被災地では，路面の隆起・陥没が見受けられた。特に，**川沿い・橋のたもとは要注意。**
・法面崩落による通行止めも多数発生するため，**事前のルート確認が必要。**

➢Googleマップ・紙地図の活用

・Googleマップは，交通規制状況がリアルタイムで反映される。
・紙地図も併用し進行ルートを確認(見易さ良・書き込み可能・バッテリー節約に効果あり)。

➢断水に伴うトイレ使用不可

・水道は復旧までに長期間を要するため，**断水場所の手前でトイレ休憩を済ませておく必要あり**。
・仮設トイレがあったとしても，設置者の指示に従う必要があるため，**使えないと考えた方が良い。**
※仮設トイレは給水だけでなく，汚物の汲み取り(または処理業者への持ち込み)が必要。

➢現地拠点本部の用地確保

・被災地では様々な復旧関係者（消防，自衛隊，他電力等）が場所の取り合いをしている。
・基本的には本店・本社で確保に向けた交渉をするが，場合によっては現地交渉等の対応が発生。
・トラブルを回避する観点から，土地所有者や誰に許可を取ったかを記録する必要あり。

■所感

・現場までの移動は通常片道2時間半の距離でも，交通規制に伴う迂回により倍の5時間を所要。
陥没・隆起など路面状況が悪い中，知らない土地を長時間走行することに負担感。
・今回は幸いにも晴天下の作業だったが，降雪(雨)時や強風など，厳しい環境での作業を想定し臨むことが必要。
・被災地手前のコンビニ・ガソリンスタンドに寄った際は，**店員の方から激励や感謝の言葉をいただき**，後方支援隊としても励みとなった。

ご清聴ありがとうございました。



より、そう、ちから。
東北電力グループ